

2023年度 メリー★ポピンズ 赤羽ルーム事業報告書 (保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

北区も少子化が進み、保育施設の定員割れが目立つようになってきている。待機児童をなくす目的で設置された認証保育園ではあるが、就労の有無に左右されないことや認可保育園への申請が出せない家庭のニーズが高く、役割は十分あると感じた。

又、保育内容や保育の質を高めていくことでロコミを増やし、地域に必要な保育園として選ばれ、生き残る術はまだまだある。

来年度も引き続きニーズに答えられ、選ばれる園となるために保育の質や職員のスキルを磨いていく。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	日々の実践に手を抜かず、心身ともに充実した一日を過ごす
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して日課を意識し、散歩はなぜ9時に出発するのかを理解した上で出発までの時間を有意義に過ごせるように話し合いを重ねた。 ・子どもたちの成長や発達に応じて室内環境を変えたり、職員のかかわり方を考えるなど、細やかな調整を行っていった。 ・年度末に向けた目標を確認しながら、月案を立て、週案に活動を落とし込んでいけるような話し合いの場を持った。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度作り上げてきた日課の習慣は、新年度初日から行っていけるよう、全職員で意識を高めていく。 ・保育計画に関しては話し合いの場を多く持つことが困難ではあったが、話し合うことで、全職員が同じ方向を向き、よりよい保育環境が整うことから、次年度は定期的に行っていく。
2	計画・ねらい	子どもを真ん中にした子育て
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿から保育計画につなげていく点に課題は残るが、目の前の子どもの思いに気づき、答えを示すのではなく、寄り添った対応や、自分で考えたり、自分で行動ができるような言葉かけができる職員が増えてきた。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの行動や興味関心事を丁寧に拾い、日常の中にある小さな喜びや小さな発見を共に喜び、探求する楽しさを味わえるようにしていく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	信頼できる安心・安全な保育
---	--------	---------------

	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・他法人での誤飲事故の報道があった翌日、出席した児童全員の給食を食べている様子をドキュメンテーションにし、お迎え時に見ていただいた。不安な気持ちで送り出した保護者もあり、食事の様子や園での見守り方を伝える良い機会となった。 ・タイムラインは主活動の様子や楽しく過ごす様子だけでなく、休息の取り方や喧嘩した後の解決の仕方、泣いている友だちへのかかわり方等、成長を感じた場面をアップした。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、保護者が信頼し、安心感が得られるように様々な方法で伝えていく。
2	計画・ねらい	最高の接遇
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムラインは毎日、連絡帳は週に3日以上全員の内容を確認し、表記の誤りや変換ミス、誤字等を確認し指導した。 ・保護者への謝罪が必要な時は謝罪の仕方や言葉の使い方、言い回し等、気を付けなければならない点を伝え、傍で見守るようし、職員の接遇スキルを高めていった。また、コンピテンシーを使い、保護者の心情を捉えた対応とはどういうものかディスカッションを行い、保護者へ寄り添った対応が意識できるようにした。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・電話対応や来訪者対応等様々な場面での接遇力を高める園内研修を行い、最高の接遇を追求していく。
3	計画・ねらい	保護者同士の交流の場を設け、共感、共有できる横の関係を作る
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回行われた保護者懇談会では保護者同士の交流時間を多くし、小人数グループに分けることで、出席した保護者全員が話をする機会が持てた。同じ悩みを共有したり、困ったことの解決策を考えたり、情報の共有をするなど、良い機会となった。 ・成長を伝える行事の際には参加した保護者同士が自由に話し、交流する場面が多く見られ、充実した時間が持てた。 ・運動会の前には競技で使用する小道具の作成の手伝いを呼び掛け、土曜保育の子どもたちと集まった家庭で交流をしながら行うことができた。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、年2回の保護者会の場を活用したり、どろんこサポーターズの活動の場を増やしたりし、交流を深めていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	園で行っているイベントを地域に発信し、園を活用してもらう
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロン、青空保育は気候や感染症の流行時期などに左右されることも多かったが、園見学で配布したお便りや地域に設置しているお便りを見て参加してくれた方も多かった。 ・今年度、お便りの設置場所に自治会の掲示板の1拠点増やすことができ、全部で5拠点となった。 ・計画していた食事に関する内容（離乳食、収穫食材を使ったクッキング）での子育てサロンも開催できた

	次年度方向性	・引き続き、地域に向けた発信を行い、気軽に足を運んでもらえるように内容を充実させていく。
2	計画・ねらい	地域の子育て相談の場としての役割を担う
	実践結果	・青空保育では公園に遊びに来ている親子に積極的に声をかけ、参加してくださった方との交流時間を少しでも多く持てるように心掛けた。 ・子育てサロンでは、テーマに掲げた内容での相談を受けたり、認証保育所についての質問があったり、一つひとつ丁寧に対応した。
	次年度方向性	・園外では挨拶をしっかり行うことで印象が左右されることから、全職員がすれ違う地域の方に対して気持ちの良い挨拶ができるようにし、相談しやすい雰囲気を作っていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	学ぶ意欲を持ち、学びを活かす
	実践結果	・園長大学®保育士大学のコンテンツは生かし切ることができなかったが、社内での公開保育や会議等で学びを深める機会を持つことができた。
	次年度方向性	・引き続き園長大学®保育士大学のコンテンツを有効活用し、スタッフを育成していく。
2	計画・ねらい	チームの一員としての自覚を持ち、力を発揮する
	実践結果	・スタッフ自身が園での課題や解決していきたいことを園会議の議題に上げ、話し合う時間を設けることができた。
	次年度方向性	・職員間の信頼関係を深め、全職員で課題解決に向けたチームワークを整えていく。
3	計画・ねらい	子どもの発達を捉えた活動計画や環境を整える力をつける
	実践結果	・限りある環境を生かし、工夫することに難しさを抱えつつ、できることを少しずつ行った。 ・食事や午睡の環境については、子どもたちの状況を考えながら細かな修正を日々行うことができていた。
	次年度方向性	・座学研修や他園研修で気づきを得たり、園内での子どもの様子の共有する場を生かし、日々の活動を充実させていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食への意欲を育てる
	実践結果	・園舎前でのプランター栽培を充実させ、何も植えられていない時期を無くし、日々作物の成長を感じられる環境を整えた。 ・収穫したものは食育活動の日だけに限らず、収穫した日の給食の具材に

		する等、食べる意欲につながるようにした。
	次年度方向性	・食への意欲とともに、育てる大切さや大切に扱うことも伝えていく。
2	計画・ねらい	物を大切にする
	実践結果	・絵本が破れたり、玩具が壊れたりした時は子どもの前で修繕するようにし、壊れたら捨てるではなく、大切に扱う姿勢を見せていった。 また、遊び方や扱い方が理解できる年齢児に対しては、壊さないように丁寧に、大切に使うことを伝えていった。
	次年度方向性	・引き続き、物を大切にすることを伝えていく

〈6〉 どんごサポーターズの始動

1	計画・ねらい	どんごサポーターズを立ち上げ、園と共に子育てを盛り上げていく
	実践結果	・どんごサポーターズの募集に関しては1家庭のみの登録に留まったが、どんご祭りや運動会などの準備や当日の手伝いにたくさんの方が集まった。
	次年度方向性	・引き続き、どんご祭り、運動会等の行事の際には呼びかけを行い、子育てを盛り上げていく機会を持つ。
2	計画・ねらい	どんごサポーターズが企画した活動を実践し、軌道に乗せる
	実践結果	・どんごサポーターズ1年目だったこともあり、どんごサポーターズ企画の活動につなげられることができなかった。
	次年度方向性	・1回目の保護者会等を利用してどんごサポーターズの活動について話す時間を設ける等、保護者と話をするきっかけを作っていく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	19人	40人	50人	0人	0人	0人	109人
年度後半： 10~3月	34人	55人	52人	0人	0人	0人	141人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	6人	1人	1人	2人	1人	4人	1人	4人	3人	5人	5人	1人	34人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	1人	1人	1人	5人

(解説) 3月1日現在の実績のため、3月の利用状況は予約数より予測したものです。

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	2人	4人	0人	0人	4人	0人	2人	5人	0人	3人	2人	2人	25人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	2人	5人	0人	0人	0人	0人	7人

(解説) 3月1日現在の実績のため、3月の利用状況は予約数より予測したものです。

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	5人	看護師	0人	栄養士	0人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	2人	補助	0人	調理	0人	事務	0人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修 ・人権チェック

		・行事確認 など
給食運営会議	月1回	離乳食進捗共有、アレルギー児共有確認、食育計画進捗確認など
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデント・事故記録簿から起こり得るリスクの検証や防止策の検討
ケース会議	なし	対象児無し
年間策定会議	年2回	次年度の保育計画作成、年間行事作成

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理係	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に水場やトイレなどの清掃状況を確認し、衛生管理を行った。 ・衛生管理点検表をダブルチェックし、漏れがないように努めた。 ・次年度も引き続き行っていく。
安全対策係	<ul style="list-style-type: none"> ・点検チェック等はスタッフと行き、日常の安全対策については、会議等でディスカッションを行い、安全面に配慮をした。

	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も引き続き行っていく。
防火管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・年間避難訓練計画に沿った計画をスタッフと立て、訓練でしかできない細やかな行動確認、振り返りを行った。 ・園の環境に合った避難計画、行動計画を今後も検討し、有事に備えていく。
食品衛生管理係	<ul style="list-style-type: none"> ・食材保管場所の衛生、温度湿度管理を日々行い、記録に残す。 ・調理室内の衛生状態を常に保っている。 ・引き続き、園生管理に配慮していく。
畑係	<ul style="list-style-type: none"> ・計画していた作物はほぼ育てる機会が得られ、土づくり、種まき、苗植え、水やり、収穫等の一連をたくさん経験できた。 ・今年度はプランターの栽培が成功したので、引き続き行うとともに、酷暑でうまくいかなかった畑の栽培も少しでも上手くいくように畑利用園と力を合わせていく。
生き物係	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方から頂いたヒメタニシの飼育が始まり、水替え等の世話を子どもたちと行った。 ・散歩で捕まえてきた昆虫やカマキリの卵などを飼育箱に入れて、子どもたちと成長を観察し、育て方を調べるなど、子どもと共に飼育方法を考えていた。 ・引き続き、身近な生き物に触れる機会を多く持ったり、世話をしたり、育つ過程の経験を持てるようにしていく。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	<ul style="list-style-type: none"> ・当日の地域来訪者数が86人に達し、好評を得る。 ・次年度は大人数にも対応できる企画や、飲食の充実も視野に企画していく。
運動会係	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も園舎内で開催し、落ち着いた雰囲気の中で行うことができた。 ・室内の手狭さも否めないため、開催場所の再検討も視野に入れていく。
生活発表会係	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も晴天時・雨天時の2パターンでの計画をし、子どもたちは普段していることが普段通りにでき、保護者に日常と一緒に経験してもらうことで保育園での生活を肌で感じていただく良い機会となった。 ・来年度も引き続き、参加型の内容で開催していく。

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・登園を嫌がる時の対応。 ・イヤイヤ期の対応。 ・離乳食相談。
保育参加	<p>4～3月まで 合計2名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月に2名予約済み。参加していただくことで、子どもたちの生活や保育者の関り等知っていただく良い機会となっている。
保護者面談および発達相談	<p>4～3月まで 合計0名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面談時間としての相談はないが、送迎時の短時間での対応は日々行っている。
運営委員会	<p>運営委員会を6月23日と11月24日に自園にて実施し、参加した保護者延べ6名 詳細は議事録に記載</p>

〈2〉 計画した年間行事の振返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	食事の環境を整える。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・離乳食は少人数で個々に対応し、咀嚼の様子、食べ具合など調理スタッフと連携しながら丁寧に行った。 ・1年間かけて行っていった完全バイキングへのステップアップ段階毎に食事の環境の見直し、改善を繰り返し行っていった。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・進級児はできることを継続し、新入児は個々の様子を見極め、できることから始めていく。 ・0歳児は引き続き、個々の口腔発達に応じた食事の環境を提供する。
2	計画・ねらい	自分で食べる意欲を育てる。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・1, 2歳児は配膳される食事から盛りつけられた皿を取りに行くことを始め、おやつバイキング、昼食のおかわりのバイキング、昼食の盛り付けの一部バイキングとステップアップしていった。 ・0歳児も仕草やオノマトペを使い、親しみのある職員との楽しい雰囲気の中で安心して食事ができるようにした。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、子どもたちの様子を把握しながら意欲を育てていく。

3	計画・ねらい	好きなものを増やす
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・畑やプランターで収穫したものは食育活動日だけでなく、当日の食事の食材になる等、食べることが楽しみになるようにした。ネギやオクラ等普段は敬遠しがちな食材も食べてみようとする姿も見られた。 ・苦手なものは無理強いせず、食べてみようとする気持ちが芽生えるまで待つようにした。
	次年度方向性	・次年度も引き続き、様々なものに触れ、食べてみたい、食べてみようとする気持ちを育てていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月1日/12月7日に実施
歯科検診	実施なし
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	<ul style="list-style-type: none"> ① 5月9日に自園にて手洗い指導を実施 ② 11月17日に自園にて鼻水の拭き方、かみ方を実施 ③ 1月15日に自園にて歯磨き指導を実施
流行した感染症	<ul style="list-style-type: none"> ① 12月に胃腸炎、園児8名罹患報告有り。2週間程度で終息 ② 1月に新型コロナウイルス感染症、園児6名感染報告有り。1月25日に終息
発作・痙攣等の対応	対象児なし
エピペン使用できるスタッフの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・5月24日～29日に自園にてエピペン研修を全スタッフ8名、内2名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ8名のうち、8名が使用可能
AED使用できるスタッフの状況（AED設置施設のみ）	<ul style="list-style-type: none"> ・2月17日に自園にて救命研修をスタッフ5名、内4名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ8名のうち、8名が使用可能
その他保健に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・流行しやすい感染症が発生したときは、保護者への通知（掲示やアプリ使用）を行う。また、発生時には園内の消毒などを徹底して行う。 ・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指

	導・手洗い指導を行う。
--	-------------

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 /保険証期限確認	年2回/4・10月 ⇒4月28日、10月27日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/6月1日、12月7日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4・10月の園会議時 ⇒4月14日、10月13日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	一人ひとりが遊びこめる環境を作る
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・0～2歳児の異年齢児が同一空間で生活するため、どの発達においても満足のいく環境を整えるのは難しい面も多く苦戦した。 ・静と動の空間を意識した環境は前年度より意識して整えられた。

	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・仕切りのある2空間を工夫次第でもう少し有効活用ができると思われるので、大人都合にならず、子どもの活動を主体に環境を考えていく。 ・雨天時など室内で過ごす時間が長い日は大人が遊びの中心になってしまうことが多かったので、子どもたちが考えて工夫できる表現活動がいつでもできるように準備していく。
2	計画・ねらい	気持ちの良い環境を整える
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に整理整頓した場所を維持し、1年間使用しなかったものに関しては廃棄した。 ・汚れたときに綺麗にするのではなく、汚れが目立たなくても毎日・毎週清掃できるようにチェック表に追記し、美観を保つようにした。
	次年度方向性	・引き続き、日々の清掃によって美観が保てるようにしていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

該当遊具・家具なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に沿った自衛消防組織を基に避難訓練を毎月1回行う。 ・防災自主点検を年2回行う。 ・日常点検の実施。
2	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止チェックを年4回行う。 ・設備点検チェックを年4回行う。 ・事故防止委員会の実施。 ・怪我発生時には法人のケガ発生時フローチャートに従い対応。
3	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者侵入訓練を年2回行う。 ・職員全員笛の携帯を日々確認。 ・自治体や保護者との不審者情報を共有。
4	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・「光化学スモッグ注意報発令配信メール」に登録し、発生時には行政指示に従い行動した。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

実習性の受け入れはなかったが、職業体験で高校生を一人受け入れる。

将来に保育士としての仕事を視野に入れており、2日間体験することで自分が働くイメージを少し持つことができたようだった。

〈2〉 実習生の受入

今年度受入なし

〈3〉 中高生の受入

日程	学校名	人数
8月15～16日	桜丘高等学校	1人

7. スタッフ研修

〈1〉 園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	14日 8名	12日 8名	9日 8名	14日 8名	10日 8名	15日 8名	13日 9名	10日 8名	8日 8名	12日 8名	21日 7名	15日 7名
園内研修	14日 9名	12日 7名	9日 7名	14日 6名	10日 8名	15日 7名	13日 7名	10日 6名	8日 5名	12日 6名	21日 9名	3日 8名

〈2〉 外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
7月5日	北区保健所	保育施設一斉点検・食品衛生講習会	1名	有
3月14日	北区保育課	不適切保育に関する研修	1名	有

〈3〉 法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

新型コロナウイルス感染症が5類になったことで交流が再開できると期待した1年であったが、例年にはない酷暑や時季外れの感染症の流行等、交流が再開できない施設も多く、予定していた交流があまりできなかった。昨年度から交流を始めた短期大学生との交流は継続され、学び合いの良い機会となった。

〈2〉施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：北区赤羽公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：赤羽岩淵交番、赤羽駅、野口薬局。ビバペット、八百正、八百英、山本整骨院、朝日新聞、うえのや、郵便局、赤羽消防署、金子園等
世代間交流	10月31日におおるりデイサービスにてハロウィン交流を実施
異年齢交流	3月18日に朝霞どろんこ保育園にて幼児クラスとの交流を実施
その他活動	7月19日に星美学園短期大学にて造形ゼミの学生との交流を実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

該当なし

10. 要支援児

今年度、対象園児なし

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
12名	0名	5名	86名	5名	3名	0名	2名	9名	2名	10名	6名	140名

実施項目	詳細													
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施													
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件													
子育てサロン	月1回 参加者延べ人数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	2名	0名	5名	0名	5名	3名	0名	0名	9名	0名	0名	2名	26名	
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置													
ちきんえっぐだより	毎月1日発行													

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年4月14日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時00分

自己評価終了時刻：14時00分

自己評価実施者：澤 郁子、江袋 唯

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

(省察) 不満があるという回答はなかったが、人に勧めたくなるほどの満足感は得られていないことが結果に反映されているので、日々の対応、保育内容の共有等、保護者の立場を考えた対応を全職員ができるようにしていく。記述内容は職員の励みになる物だったので、気持ちを裏切らないようにし

ていきたい。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：メリー★ポピンズ 赤羽ルーム 施設長 澤 郁子